

# 久保みき



桜環境センター(以下、センター)は、2015年(平成27年)に運用が開始され、露天風呂やサウナなども併設され、多くの市民が利用しています。特に高齢者にとって、安価に利用できるお風呂は楽しみのひとつです。そこで重要となるのが送迎バスの存在です。

現在の停留所は、武蔵浦和駅・西浦和駅・中浦和駅・桜区役所の4カ所ですが、私のもとに、栄和にお住まいの高齢者の方から「バスを利用したいが、桜区役所まで行けない。もっと近くに停留所がほしい」との声が寄せられました。そのため、決算特別委員会で運行ルートとバス停の再検討を全力で求め、市も「必要性があれば検討する」と答弁しました。

## 桜環境センター 送迎バスの 改善求める



### 桜環境センター前の横断歩道に信号を!

昨年、センター利用者の方が交通事故に遭いました。施設利用者の事故ということで、センターとしても看過できない問題です。センターとしての対策、対応について質疑しました。市は答弁で、施設内に注意喚起の張り紙をし、関係機関に信号の設置等の安全対策を求めることを約束しました。

## 殺処分ゼロがあたりまえの さいたま市へ

14年前までさいたま市は年間400頭以上の犬や猫を殺処分していました。動物愛護ふれあいセンターの駐車場の片隅には慰霊碑があります。私は議会で「殺す予算から生かす予算へ」として、殺処分ゼロを求め続けてきました。

2021年度、ついに殺処分ゼロを達成し、2024年度で4年連続、今年度ゼロになれば5年連続となります。これがあたりまえになるように、今後も求めていきます。



## 真剣に考えたい 香害問題



近年、柔軟仕上げ剤などに含まれる香料によって体調不良を訴える人が増えており、深刻な社会問題となっています。

建築材料だけでなく、日常生活で使用される製品の香料が原因となり、シックハウス症候群や化学物質過敏症を引き起こすケースもあります。こうした状況を受け、市民が公共施設を利用する際の安全性を確保するため、空気中に存在する多種多様な揮発性有機化合物(TVOC)の測定を市に要望しました。

## 障がい児家族のレスパイトは? 全く利用できない現実

育児でがんばる毎日、たまにはリフレッシュしないと保護者は心が疲弊してしまいます。そこで重要なのが、レスパイト(介護や育児を行う人が一時的に休息をとるための支援)事業です。しかし障がい児の保護者から「レスパイトを利用したくてあちこち探したが、受け入れてくれるところが見つからない」との声が寄せられました。市には、生活サポート事業などいくつかの事業がありますが、どこも深刻な人手不足。さらに障がいがない場合は事業所に入る報酬が少なく赤字になるため、事業所が受け入れられない、などの問題があることを指摘し、改善を求めました。

また、障がい児のショートステイについては、

既存のしくみでは、大人の障がい者施設に子どもが混じって過ごすことになり、子どもにとっては居心地がいい過ごし方になりません。全国には、発達障がい児家族のレスパイトのためのショートステイや福祉的ショートステイなど、障がい児を対象としたさまざまな取り組みがあります。先進事例に学び、本市でも検討を行うよう求めました。



## 歩道橋を考える

歩道橋は、1950年代後半から1970年代にかけての高度経済成長期に、自動車の急増に伴う歩行者の安全確保を目的として全国的に整備されました。しかし、その多くは階段のみの構造であり、車椅子利用者や高齢者にとっては利用が困難です。近年ではエレベーター付きの歩道橋も一部に設置されていますが、依然として階段のみの歩道橋が大半を占めており、バリアフリーの理念に反する構造物となっています。

私は、まちづくり委員会の議案外質問において、新大宮バイパスの歩道橋の現状についてとりあげ



### 住みよい桜区へ 田島2丁目の電柱移動



ました。現在、このバイパスでは、歩道橋が主な横断手段となっており、今後の超高齢社会の到来を考慮すると、多くの市民が安全に横断できなくなる可能性があります。特に桜田地域では、バイパスを渡らなければ郵便局やスーパーマーケットなど、生活に必要な施設にアクセスできない状況です。

こうした課題を踏まえ、私は新大宮バイパスへの横断歩道および手押し式信号の設置を市に要望しました。これに対し、市は「国道事務所および交通管理者へ、地元の強い要望を伝えてまいります」と答弁しました。

桜田地域はすでに高齢化が進行しており、日常生活に支障をきたす住民も少なくありません。すべての市民が安心して移動できる交通環境の整備は、喫緊の課題であり、早急な対応が強く求められます。



あなたの願いによりそう、支える。  
そんなさいたま市政へ

一歩ずつ確実に前進

- 岩槻区で投票所増設を実現。投票率が上がりました。
- 応急手当て講習でASUKAモデル上映実施実現。
- 4年連続犬猫の殺処分ゼロ達成。

市民のために提案



8月29日、「危険な暑さから市民の命を守るための申し入れ」で、エアコン購入助成、学校給食調理室へのエアコン設置などを求める。

- 救急車への電動ストレッチャー導入を提案！
- 市は「厳しい財政状況で収支不足」と言いながら、毎年黒字。市民に分かりやすく説明するべき。
- 2026年度から県水が21%値上げ！市の水道料金を値上げしないよう求める。
- 電動アシストなど、自転車が大型化しているため、市内駐輪場の安全を確保して！
- 香りの害、「香害」って知っていますか？香害を知らせるポスターの周知と、人がいるときに公共施設での総揮発性有機化合物(TVOC)の測定を。



相次ぐ入札不調

武蔵浦和学園、中央区役所 + 周辺施設再編、次世代型アリーナ構想

さいたま市は相次ぐ入札不調のおもな理由に「物価高騰」をあげていますが、そもそも積算が甘かったことが明らかに。市は一般的な戸建て住宅建設用の指標を使ってきましたが、大型建築物工事に用いられる指標は約3倍と乖離しています。これを適用すると、中央区役所周辺施設再編事業の予算は314億円から560億円以上にふくれあがります。事業費増額を前提にこのまま事業を続けるのか。大型公共事業の見直しが必要です。

市立病院が41億円の赤字

さいたま市立病院(緑区)の2024年度決算は約41億円の赤字でした。患者が増え、収入も増えましたが、物価高騰で、医薬品の仕入れや施設の維持管理など、様々な費用が膨れ上がったことが赤字の主な原因です。国の診療報酬引き上げが物価高騰等に追いついておらず、市立病院の経営努力だけでは解決できません。私たちは国に診療報酬引き上げなど対応を求めるよう、また当面は市からの支援を拡充するよう提案しました。



10月1日、520項目の「2026年度予算編成及び市政運営に関する要望書」を市長に提出

各区の要望を提案

- 西区** 宮前町に計画中の産業集積拠点について、林の伐採は一部にとどめ、公園建設部分の樹木を残し、保存すること。
- 北区** 大砂土小学校の大規模化・過大規模化解消のため、新設校を計画すること。
- 見沼区** 七里駅北側の桜の木を市の責任で守ること。
- 大宮区** 大宮駅東口から区役所への「無料のシャトルバス」を整備すること。
- 中央区** 与野体育館にエアコンを設置すること。
- 浦和区** 調公園のじゃぶじゃぶ池を、子どもが遊べるように復活させること。
- 桜区** 中浦和駅前に公衆トイレ及び図書館の返却ポストを設置すること。
- 南区** 笹目川遊歩道にベンチを設置するなどの整備を進めること。
- 緑区** 東浦和駅近くに新しくできる商業施設に期日前投票所を設置すること。
- 岩槻区** 「おりづる号」を大型バス車両に変更するか、2台に増やすこと。

託された思いを届ける



あなたの願いに応える会派は？

請願名	共産	立憲	公明	さいたま市民	市民団	維新	みらい	無所属
6月議会 所得税法第56条を廃止するよう国や政府機関に意見書を上げること	○	×	×	×	×	×	×	×
3000人規模の義務教育学校「武蔵浦和学園」建設計画の見直しを求めます	○	×	×	×	×	×	※	×
9月議会 生活保護を躊躇なく申請できるよう、市民への広報・周知の拡充を求める	○	×	×	×	×	×	×	×
国に「消費税のインボイス制度見直しの意見書」提出を求める	○	○	×	×	×	×	×	×

2025年度 市民の願い(請願)に対する各会派の採決態度 ○…採択 ×…不採択 ※…一部退席



毎年、「厳しい財政状況」と言い、昨年度は「252億円の収支不足」と発表したさいたま市。多くの市民から「さいたま市の予算は大丈夫か」という不安の声が寄せられましたが、フタをあけてみると、2024年度のさいたま市の財政は実質収支55億円の黒字で、積立基金を含めると実質140億円もの余剰を達成。基

金残高(市の預貯金)は合計949億円と、前年度比で83億円も増えました。

一方で、物価高騰が続く中、高齢者の約7割が所得10万円未満の厳しい生活を強いられています。そのため昨年度は市民生活を支援する政策、とくに高齢者への支援が不可欠でした。ところが、市の支援策は「デジタル地域通貨の活用」など、高齢者には届きにくい内容。また、公設民営方式で運営されていた「グリーンヒルうらわ」が廃止され、入所者や多くの高齢者から、寂しさと戸惑いの声が相次ぎました。さいたま市は今こそ、黒字を生かして市民に寄りそう政策を推進すべきです。